

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービスこどもラボ東雪谷				公表日 令和8年1月23日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	0	<ul style="list-style-type: none"> ・10人定員を遵守している。 ・玩具の整理を適宜行っている。 ・相談室、事務室も確保している。 	
	2	利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	0	<ul style="list-style-type: none"> ・常勤専従経験5年以上の職員を加配配置している。 ・基準人員プラス1~2名職員を配置している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どものその時の様子、状態に応じても対応人數を考える必要があると感じることがある。 ・適切であるが、個別対応を望む児がスタッフを抱え込んでしまい、全体として手が足りないことが多々ある。個々に向き合いつつも、他児との間わりのきっかけ、橋渡しを常に意識したい。
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	0	<ul style="list-style-type: none"> ・間仕切りのない生活空間のため、子どもの活動に応じて自由にコーナー分けを行っている。 ・ホワイトボードに1日の流れを書いている。 ・絵カードで視覚的情報の工夫をしている。 	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	5	0	<ul style="list-style-type: none"> ・滑り止めのため、リノリウム素材の床を毎日水拭きしている。 ・療育後に室内の掃除や整理等を行っている。 	
	5	必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5	0	<ul style="list-style-type: none"> ・宿題や課題への取り組みのため相談室を開設している。 ・宿題に取り組む時や一人で落ち着きたい時などに相談室を開設している。 ・宿題に集中して取り組みたい児や、一人の空間がほしい児は小部屋を使うことができる。 	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5	0	<ul style="list-style-type: none"> ・気づき、成長などについて、日々の療育の中でその都度共有することができている。 ・療育後にその日の出来事や気づきなどを都度報告し合っている。 	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年12月に保護者向け評価アンケートを実施し、集計結果を全職員で共有し改善につなげている。 ・保護者向けアンケートの実施後、結果を職員間で共有している。 	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0	<ul style="list-style-type: none"> ・療育やプログラムの運営について、いつでも自由に話すことができている。 ・何かあれば、その都度、職員間で共有するように心がけている。 ・日々、利用児の様子をフィードバック、意見交換を心掛け、今後について考えるようにしている。 	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	5		・第三者評価は行っていない。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5	0	<ul style="list-style-type: none"> ・年度の初めに年間計画を提示するほか、計画以外にも受けたい研修を受けることができるようになっている。 ・年間の研修スケジュールに沿って、職員全員が受講している。 ・年間研修計画を基に研修を受講できる機会があり、また受講しやすい環境を作ってくれている。 	
アセスメント	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5	0	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ上に支援プログラムを掲載、その旨を保護者に周知している。 ・ホームページに公開している。 	
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5	0	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者のニーズ、子どもの成長を丁寧に汲み上げ、半年毎に計画を更新している。 	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5	0	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の療育の中で、子どもの成長やニーズを職員間で共有することができている。 	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5	0	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間で共通の認識を持って療育を行う体制ができている。 	
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	0	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な場面や事象において職員間で確認し合える体制ができている。 	

適切な支援の提供	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5	0	・個別支援計画に「本人支援」「家族支援」「移行支援」「地域支援」「5領域」「留意事項」を設定している。	
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	0	・職員が自由に意見を表明できる体制ができるている。 ・職員の提案を反映させることもしている。	
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5	0	・子どもの心身の成長に合わせてアレンジしている。 ・前回取り組んだ内容でも、やり方を変える等工夫している。 ・子どもの興味や好きなことをプログラムに取り入れながら支援を行っている。 ・定番のプログラムでも内容に変化をつけ、発展していくよう工夫している。	
	19 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5	0	・一日の療育において、自由遊びとプログラムを組み入れている。 ・一人ひとりに合った活動方法を行えるよう心掛けている。	
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	3	1	・その日の通所児童を確認し、活動の内容や流れを確認している。 ・最近の様子等を共有し合い、どのように支援するか話している。	・なるべく確認、相談を行うようにしているが必ずとはいい難い。
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4	0	・その日にみられた子どもの成長や課題を共有している。 ・その日共有できなかつことは、後日、共有し合って全員が把握している。 ・時に翌日になってしまうこともあるが、それぞれの児の様子を伝えあい、改善点などを模索するようにしている。	
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5	0	・毎日、一人ひとりの活動記録をとっている。 ・一人ひとりの実績記録表の記入や業務日誌の入力をしている。	
	23 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5	0	・6か月に一度、計画を更新している。 ・6か月に一度、行っている。	
	24 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	5	0	・「アート」「ヨガ」「運動遊び」「頭脳遊び」「体験活動」のプログラムのほか、自由遊び、商店街での買い物体験などを取り入れている。	
	25 こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5	0	・宿題に取り組む時間など、こどもが見通しを持って決められるように支援している。 ・難しいことでも否定せず、代替案を提案し、本人の自己決定力を育てている。 ・日々のプログラムの中で、子どもの参加の仕方を尊重している。	
関係機関や保護者との連携	26 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4	0	・「大田区児童発達センターわかばの家」「サポートピア」と連携をとっている。 ・管理者兼児童発達支援管理責任者が参加している。	
	27 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	0	・「医療法人社団しぶいこどもクリニック」と提携を行っている。	
	28 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	3	1	・保護者から学校の年間行事予定表をいただいている。	・学校との情報共有は少ないが、保護者から年間計画表の提供を受けている。
	29 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	1	3		・計画相談事業所経由で情報を共有している。
	30 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	1	3		・ニーズがないので行っていない。 ・高校三年生まで通っているケースが少ないと出来ていない。
	31 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	4	0	・「大田区児童発達センターわかばの家」と連携を取り、研修会にも参加している。	
	32 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。	1	4	・公園でも施設以外の児童と関わることもある。	・ニーズがないので行っていない。
	33 （自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	2	1		・大田区ネットワーク会議に参加している。
	34 曰頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5	0	・送迎時の伝達、面談、メールでの連絡などの機会に情報を共有している。 ・送迎時やメールで伝えている。 ・送迎時など保護者の方とのコミュニケーションを丁寧に行っている。	・送迎のない保護者とは現状難しい。

	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレンツ・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	2	・ポスター・チラシなどを掲示している。 ・コロナ禍以降、ニーズが減ったので行っていない。	
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5	0	・契約時の重要事項説明の中で行っている。 ・見学時や契約時に行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5	0	・個別支援計画の更新時のほか、ニーズに応じて随時、行っている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5	0	・個別支援計画の更新時に中間評価、総合評価を振り返りながら新たな計画に同意を得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5	0	・育児経験、保育士としての経験を踏まえて助言、支援を行っている。 ・送迎時に面接で行ったり、メールや電話等でも行っている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	0	5		・コロナ禍以降、ニーズが減ったので行ってない。 ・以前は行っていたが、感染症のリスクから設けられていない。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4	0	・苦情対応のマニュアルを整備しているが、これまでに苦情はない。 ・苦情解決マニュアルを用意している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5	0	・ホームページのブログの更新頻度を高めて活動の様子を発信するほか、メールを用いて通所予定や行事予定の連絡を行っている。 ・定期的にブログやインスタグラムを更新している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5	0	・個人ファイルを鍵付きの書庫で保管しているほか、ブログでの写真加工も行っている。 ・鍵付きロッカーへ保管している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5	0	・発語のないこどもとのコミュニケーションにおいて、手話やマカトンサイン、絵カードを用いている。 ・マカトンやイラストなどでコミュニケーションをとっている。 ・言語外ツール、視覚的なコミュニケーションを取り入れている。	
非常時等の対応	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	3	・地元の神社や商店街の祭りや催事に参加している。	
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5	0	・事故防止、防犯、感染症対応、自然災害対応、安全計画、水難災害対応など定められたマニュアルを策定し、研修による周知のほか避難訓練（通所児童含む）を年2回、BCP訓練を年1回行っている。 ・定期的に研修や訓練を行い再確認している。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5	0	・BCP（感染症、自然災害）を策定し年1回研修及び訓練を行っている。 ・研修を通して定期的に再確認している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5	0	・契約時のアセスメントの際に必ず行っている。 ・契約時に確認し、その後全職員へ共有されている。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	0	・契約時のアセスメントの際に必ず行っている。 ・契約時に確認し、その後全職員へ共有されている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5	0	・安全計画を策定し、年1回研修を行っている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5	0	・夏季の外遊びにおける熱さ指数による制限やミニプールでの水遊びにおけるピューラックスでの消毒などを周知している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5	0	・ヒヤリハット報告書を全従業員で回覧している。 ・都度、ヒヤリハット報告書を書き、全職員に共有している。 ・室内、外活動で動きが大きく変わることも多いので、普段の様子をよく把握するようにしている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5	0	・毎年、管理者兼児童発達支援管理責任者が東京都の虐待防止研修に参加し、全従業員に伝達研修を行っている。 ・毎年、研修を行っている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	4	0	・虐待防止研修と同時に身体拘束適正化研修を行っている。	